

# 幹部へのインタビュー

Top Interview



人材開発統括官  
人材開発政策担当参事官

**澤口 浩司**  
さわぐち こうじ



## Career Story 世の中のピンチと向き合う



平成7年の阪神淡路大震災、その後も新潟県や北海道などで地震がありました。そして平成23年の東日本大震災。被災者の方々への迅速な支援の実施、ハローワーク等現場の安否確認・体制確保…etc. とにかく求められるスピード感に必死に対応しました。あの時見た、宮城県石巻市の光景を忘れることはないだろうと思います。

バブルの崩壊、平成不況、リーマンショック、誰も予想していないコロナ禍という国難…。学卒者をはじめ若年者への就職支援（フリーター対策など）、急増する非自発的離職者への支援、雇用保険法改正による適用・給付制度の見直しによる支援、雇用調整助成金のコロナ特例による雇用維持の支援…。その時その時のあの瞬間、やり得ることを自分はやり切れただろうか、今でも振り返ることがあります。

## 過去の経歴

- 平成4年 **入省**  
地方研修：大阪  
現場であるハローワークの求職者窓口・求人者窓口での相談業務や職業紹介業務は、とてもやりがいのある仕事でした。
- 平成11年 **職業安定局庶務課管理係長**  
省庁再編（労働省→厚生労働省）、都道府県労働局の組織立上げを担当しました。なかなか経験できる業務ではありませんが、当時はとにかく大変でした。
- 平成25年 **神奈川労働局職業安定部長**  
二度目の地方管理者。“本省視点”から“現場視点”の業務に頭を切り替え、現場を盛り上げるのが大事な仕事です。
- 平成28年 **人材開発統括官技能実習業務指導室長**  
新法である「技能実習法」の施行を担当。これまで全く経験したことがない技能実習の業務で、興味深く取り組みました。
- 令和3年 **職業安定局首席職業指導官**  
ハローワークの職業紹介業務等を担当。現場目線で仕事をすることの大事さを改めて感じました。
- 令和5年 **茨城労働局長**  
地方局の管理者トップとして、労働基準行政、雇用環境・均等行政、職業安定行政、人材開発行政全てを見ていく仕事は新鮮でした。
- 令和7年 **現職**  
リスキリングなどの人材育成・人材開発政策の調整・とりまとめ役を担当しています。

## Q1 | 厚生労働省の人間科学職について教えてください。

厚生労働省は「人に関わる仕事」をしています。その中で人間科学職は、特に「働く」場面に関わる「政策や事業の企画・立案」から、それらの「政策等の実行・運用」、都道府県労働局やハローワークといった「現場におけるリーダー役（管理職）」と、幅広い業務を経験します。

直轄の現場（労働局（47か所）・ハローワーク（544か所））を持っていることも大きな特徴であり、自分が関わった政策・事業が“きちんと動いているのか、効果が上がっているのか”を自分の目で確かめることができる面白さにもつながっています。

その他、国際関係業務や、関係機関の研究業務などに関わることもあります。



茨城地方最低賃金審議会に最低賃金の改定を諮問

## Q2 | 人間科学職の仕事の一つに「政策の企画立案」がありますが、どのように行われるのですか。

政策や事業、具体的な支援策などを考える時には、例えば、若年者対策であれば若年者の方々、障害者対策であれば障害のある方々がどう思っているか、が原点です。対象となる方々が求めているもの、ニーズがどこにあるのかをきちんと把握することが大事です。

こうした中で、厚生労働省が全国に「労働局・ハローワーク」という直轄の現場を持っているメリットが発揮されます。我々の現場を通じて、“地域の声”、“現場自身の声”などを全国的に把握することができます。こうした「現実の声」をベースにして政策や事業を考えています。時代とともに状況も変化していきます。こうした政策や事業を時代に合わせて変えていく時も、現場を通じ、ニーズを把握していきます。

## Q3 | 人間科学職の魅力を教えてください。

ずっとこの仕事をしてきました。気がつけば34年間になります。1つの制度や事業にも、色々なフェーズの仕事があります。

- ① 法律改正等により新制度をつくる、または制度改正する、新しい事業をつくる
- ② この制度や事業を実際に動かしていくための運用方法やルールを考えて定める
- ③ 現場（労働局・ハローワーク）に具体的な業務指示を行い、制度や事業がスタートする
- ④ 現場が上手く機能しているか、制度や事業の効果はどうかについて検証や必要な見直しをしながら、さらに制度や事業を前に進めていく

これらのフェーズの中で、時に、現場部隊（労働局）のリーダーとして、制度や事業を“動かしていく主体”として仕事する場面もある、というのが人間科学職です。“現場が見えるところから、政策等の企画立案、運用、現場への業務指導に至るまでに携わる”というのが我々の仕事です。



茨城地方労働審議会において、施策の実施状況について公労使から意見をいただく

## 受験生へのメッセージ

我々の仕事は、働くことへの支援など「人に関わる仕事」であります。日頃、仕事をしている机の上では“PC”や“書類”と向き合っていると、その先には必ず「人がいる」、それが我々の仕事です。難しいこともありますが、やりがいがある仕事だと思います。